

中・高 合同

令和7年度

教育研究員研究報告書

特別活動

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究仮説	2
III	研究構想図	3
IV	研究方法	4
V	研究内容	5
VI	研究成果の分析	11
VII	今後の課題	12

【研究主題】

一人一人のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒の育成 ～活動後の振り返りの工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

1 研究主題設定と社会的背景

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中央教育審議会 令和3年1月26日）では、2020年代を通して実現すべき「令和の日本型学校教育」の姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげると示されている。その中で、「協働的な学び」は「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要であること、さらに、集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出すことも示されている。

「東京都教育ビジョン（第5次）」（東京都教育委員会 令和6年3月）では、「未来の東京」に生きる子供の姿として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる。他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」ことが掲げられている。

一方で、「義務教育に関する意識に係る調査 概要・集計結果（令和6年3月5日差し替え）」（文部科学省）では、「自分の良さを生かし、他者と協力して取り組む力」及び「自分には良さがあると認める力」を身に付けたいとする生徒は多い（Ⅲ 研究構想図参照）ものの、実際に身に付いていると感じている生徒は少なく（Ⅲ 研究構想図参照）、望む力との間に乖離が見られる。このことは、自己肯定感の形成や自己の価値を実感する機会が十分に確保されていない可能性を示している。

中学校学習指導要領解説特別活動編（以下、「中学校解説」という。）及び高等学校学習指導要領解説特別活動編（以下、「高等学校解説」という。）では、振り返りについて「形式化・形骸化しないよう、自分たちが活動した結果、目標の達成に近づくことができたかや学級・ホームルームの生活が向上したか等の視点を明確にする」ことが求められている。教育研究員の過年度研究においても、小学校から高等学校までの系統的な学級・ホームルーム活動の継続性を保障する上で、発達の段階に応じた振り返りの工夫が重要であることが指摘されている。

これらの背景を踏まえ、本研究では、生徒の実態や先行研究の成果を踏まえつつ、生徒が一人一人のよさや可能性を認識し、他者との協働に生かす力を育むための「振り返りの工夫」に焦点を当てることとする。

2 中学校・高等学校における特別活動の現状と課題

中学校解説では「中学生の時期には、一般的に、他人の目が気になったり、自分の意見を主張することを躊躇ったりしがちである」とされ、高等学校解説でも同様に、「他人の目が気になったり、自分の意見を主張することをためらったりしがちである」と示されている。中学校・高等学校に共通して、自分なりの意見を持ち、合意形成に臨む活動の過程とする必要がある。

また、「主体的・対話的な深い学び」を実現させるためには、「互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、等しく合意形成に関わり役割を担う」ことが求められる。特定の生徒の発言に依存したり、同調圧力によって結論が導かれたりしないように、少数意見を大切にする工夫も必要である。

さらに、教育研究員の過年度報告書においては、小学校から高等学校までの学級・ホームルーム活動を一貫して捉え、系統的な指導計画を構想する必要性が繰り返し指摘されてきた。このような背景から、中学校・高等学校における特別活動では、一人一人のよさや可能性に気付くための「個別最適な学び」と他者の考えとつながり合い、協働して課題解決に向かう「協働的な学び」とを一体的に充実させる仕組みづくりが求められている。

特に、振り返りの工夫は、活動の意味付けや学級・ホームルーム集団の成長の実感を促し、次の活動への意欲を高める上で重要である。活動後の単なる記述にとどめず、他者との共有や承認のプロセスを通して価値付けを行うことで、生徒は一人一人のよさや可能性を認識し、それを学校生活の集団の一員としての役割を自覚することにつながる。

以上を踏まえ、本研究では「一人一人のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒の育成」を主題に据えることとする。

II 研究仮説

学級・ホームルーム活動における振り返りを充実させることで、生徒が一人一人のよさや可能性を認識し、学校生活に生かそうとする態度が育まれると仮説する。ここでは特に2つの点について着目した。

第一に、ICTを用いた「学級・ホームルーム活動振り返りブック」（以下「振り返りブック」）の活用である。「振り返りブック」内で行った自己評価を他者と共有することで、自己と他者の数値評価の比較を行い、自己を過小評価する生徒がより適切に自己評価を行うことができる。そのことにより自己肯定感を高めることにつながると考えた。さらに、他者からのコメント評価を共有することで生徒自身が気付いていない自己のよさを客観的に捉えることができ、自己のよさや可能性に気付くことができると考えた。

第二に、司会をする生徒や教師からの価値付け後に活動を振り返ることで学級・ホームルーム活動全体を客観的に捉え直し、振り返りを深めることができ、自己肯定感や所属意識の向上につながると考えた。

以上のことから本研究の仮説を「活動後の振り返りにおいて、自己評価だけでなく他者評価を共有し多様な考え方や感じ方に触れることができれば、活動に参画する態度が育まれ学校生活で生かそうとする態度を養うことができる」とした。

Ⅲ 研究構想図

<p>【共通研究テーマ】 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現</p>															
<p>【今日的な教育課題】 「東京都教育ビジョン(第5次)」(東京都教育委員会 令和6年3月)では、「未来の東京」に生きる子供の姿として、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる。他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」ことが掲げられている。</p>															
<p>【生徒の実態】 身に付けたいと思う力と実際に身に付いていると思う力の比較(中学生)(%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>「身に付けたい」と回答した割合</th> <th>「身に付いている」と回答した割合</th> <th>差(ギャップ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の良さを生かし、他者と協力して取り組む力</td> <td>44.0%</td> <td>28.3%</td> <td>▲15.7pt</td> </tr> <tr> <td>自分には良さがあると認める力</td> <td>33.5%</td> <td>22.3%</td> <td>▲11.2pt</td> </tr> </tbody> </table>				項目	「身に付けたい」と回答した割合	「身に付いている」と回答した割合	差(ギャップ)	自分の良さを生かし、他者と協力して取り組む力	44.0%	28.3%	▲15.7pt	自分には良さがあると認める力	33.5%	22.3%	▲11.2pt
項目	「身に付けたい」と回答した割合	「身に付いている」と回答した割合	差(ギャップ)												
自分の良さを生かし、他者と協力して取り組む力	44.0%	28.3%	▲15.7pt												
自分には良さがあると認める力	33.5%	22.3%	▲11.2pt												
<p>「義務教育に関する意識に係る調査 概要・集計結果(令和6年3月5日差し替え)」(文部科学省)</p> <p>回答割合には、10ポイント以上の差があり、自己理解や自己肯定感が十分に育成されていない現状が示唆される。</p>															
<p>【育てたい生徒像】 ○自己のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒</p>															
<p>【研究主題】 一人一人のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとする生徒の育成 ～活動後の振り返りの工夫を通して～</p>															
<p>【研究仮説】 ○活動後の振り返りにおいて、自己評価だけでなく他者評価を共有し多様な考え方や感じ方に触れることができれば、活動に参画する態度が育まれ学校生活で生かそうとする態度を養うことができると考えた。</p>															
<p>【研究方法】</p> <p>調査研究 生徒の意識や実態を調査し、成果と課題を分析する。</p> <p>検証授業 活動後の振り返りで、「振り返りブック」へ自己評価及び他者評価を入力後、クラス内で共有し、一人一人のよさや可能性を認識する。</p>															
<p>【評価・分析方法】 ○振り返りから自己のよさや可能性を認識し、学校生活で生かそうとすることができたかを分析する。 ○検証授業後の実態調査を分析する。</p>															

IV 研究方法

1 調査研究

- (1) 方法・・・Web アンケートによる
- (2) 対象・・・研究員所属校
(都内の公立中学校4校(139人)及び高等学校1校(28人))
- (3) 実施時期・事前 9月上旬
事後 11月上旬

2 検証授業

- (1) 方法・・・「振り返りブック」による
- (2) 対象・・・研究員所属校
(都内の公立中学校1校及び高等学校1校)
- (3) 実施時期・都内の公立中学校(9月)
都立高等学校(10月)

2 Web アンケート項目

質問1 学級活動・ホームルーム活動において自分のよさは何だと思えますか。

選択肢：発言できる

友達の意見を聞いて反応できる

話合いがしやすい雰囲気をつくれる

意見を比べて良い点を見つけることができる

アイデアを考えることができる

他の人の意見を踏まえて考えることができる

提案理由(背景)を踏まえた考えをもつことができる

みんなの意見を大切にできる

複数の意見をつなげることができる

課題点を解消することができる

司会グループ(リーダー)を支えることができる

その他

(複数選択可)

質問2 学級活動・ホームルーム活動において自分は役に立っていると思えますか。

思う←やや思う・あまり思わない→思わない(10段階評価)

10・9・8・7・6・5・4・3・2・1、分からない

質問3 学校生活に自分のよさや可能性を生かそうとしていますか。

思う←やや思う・あまり思わない→思わない(10段階評価)

10・9・8・7・6・5・4・3・2・1、分からない

V 研究内容

1 <検証授業 1>学級活動(1) 中学校第2学年

議題	クラス皆と仲良くなるための「やさCメルCなかよC会」をしよう。		
内容の まとめ	学級活動(1)「学級や学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	1学期を振り返って、学級としての団結力や安心感が足りない。そこで、『やさCメルCなかよC会』をすることで、学校生活に安心して取り組み、学級としての団結力を高めることができると思うから。		
※中学校の 評価規準	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者とし ての思考・判断・表現	主体的に生活や人間 関係をよりよくしよ うとする態度
	①学級や学校の生活上の諸 問題を話し合っ解決す ることや他者と協働して 取り組むことの大切さを 理解している。 ②合意形成の手順や活動の 方法を身に付けている。	①学級や学校の生活をよ りよくするための課題 を見いだしている。 ②課題解決に向け、話し 合い、多様な意見を生 かして合意形成を図 り、協働して実践して いる。	①学級や学校におけ る人間関係を形成 し、見通しをもった り振り返ったりし ながら、他者と協働 して日常生活の向 上を図ろうとして いる。
本時の ねらい	学級の団結力や安心感を高められる集会の内容を考えることができるようにする。		

	●生徒の活動 ☆「振り返りブック」の活用	◎目指す生徒の姿【観点】〈評価方法〉 ○指導上の留意点
事前の 活動	●議題・提案理由を決め、学級で共通理解 を図る。 ●班長会議で意見の分類・整理をし、話し 合いの見通しをもつ。	◎「C組 やさCメルCなかよC会」(以下: 集会) への見通しをもち、意欲的に取り組 もうとしている。 「全員が関われる学級会にしたい。」 ○生徒の意見を尊重する。 【主体的態度】〈観察〉
話し 合い 活動	●話し合うこと1「クラス皆と仲良くなる ためのレクは何をしたらいいか。」 ●話し合うこと2「仲良くなるための工夫 について。」 ●振り返りを書く。 ☆「振り返りブック」の「意欲」「思考力」 「調整力」の観点で、自分の学級会への 取組方を自己評価する。(10段階評価) ☆「振り返りブック」に「自分のよかった 点・頑張った点」、「クラスで輝いた人・ ペアの良かった点」の観点で振り返る。 その際に、友達の書いていることを見な がら考えてよい。(記述式) ●司会グループが「今日の輝いた人」を 発表する。 ☆「振り返りブック」の内容を見ながら 発表する。	◎これまでの学校行事や集団生活の経験 を生かしたり、多様な意見のよさを生か したりして、集会の活動内容の工夫につ いて考えている。 「私は、全員が関われる活動として謎解 きを提案します。」 「私は、フルーツバスケットを提案しま す。真ん中に立った人が自分についてク イズを出していくと、遊びながらお互 いの理解も深められると思います。」 「私は、みんなでたくさん話せるので人 狼を提案します。」 ◎みんなの仲を深める内容はどれがよ いか根拠を明確にして発言したり、友 達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、人狼だと陰悪な雰囲気になり かねないので、協力して話し合いがで きる謎解きに賛成です。グループごと に解けた問題数を合計して、クラスの 班ポイントに加算したら盛り上がる と思います。」 ○生徒主体の活動を尊重しつつ、適 宜軌道

	<p>●まとめを書く ☆「振り返りブック」に振り返りも含めた学級会全体の感想を書く。</p>	<p>修正を行う。 ○よい参加態度の生徒へ価値付けを行う。 ○困っている生徒へ個別に声掛けを行う。 【思考・判断・表現】 〈発言・学活振り返りブック〉</p>
事後の活動	<p>●2学期、集会を行い、振り返りを行う。 ☆「振り返りブック」に「自分のよかった点・頑張った点」の観点で振り返り、集会全体の感想を書いて次の活動につなげる。(記述式)</p>	<p>◎クラス皆と仲良くなるという集会のめあてを意識して、友達と協力して取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 (集会の準備の様子・実践の様子) ◎クラス皆と仲良くなるという視点で集会の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。 【主体的態度】〈振り返りブック〉</p>

※本議題においては、研究主題との関連により【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】に重点を置き、評価する。

2 <検証授業2>ホームルーム活動(1) 高等学校第1学年

議題	合唱祭に向けて、取組目標を決定しよう		
内容の まとめ	ホームルーム活動(1) 「ホームルームや学校における生活づくりへの参画」		
提案理由	文化祭の取組の振り返りを生かし、1年生最後の学校行事である合唱祭に向けてクラス全体で協力できる体制を作りたいから。		
評価規準	よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよく しようとする態度
	①ホームルームや学校の生活を向上・充実するために諸問題を話し合って解決することや他者を尊重し、協働して取り組むことの大切さを理解している。 ②合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。	①ホームルームや学校の生活を向上・充実するための課題を多角的に見いだしている。 ②課題を解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。	①ホームルームや学校における生活や人間関係をよりよく形成し、多様な他者と積極的に協働しながら日常生活の広報・充実を図ろうとしている。
本時の ねらい	よりよい合唱祭にするために、文化祭の振り返りから見いだした学級の課題及び解決のための手だてを確認し、合唱祭に取り組むための目標を設定する。		

	●生徒の活動 ☆「振り返りブック」の活用	◎目指す生徒の姿【観点】〈評価方法〉 ○指導上の留意点
事前の 活動	<ul style="list-style-type: none"> ●文化祭の振り返りからクラスの課題を発見し、学級で共通理解を図る。 ●次の学校行事への取組目標を出し合う。 ●合唱祭にどのように取り組みたいか事前にアンケートをとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎合唱祭への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 「提案理由を意識して、積極的に自分の意見を伝えたい。」 「司会として、みんなの意見をまとめて話し合いを進めていきたい」 【主体的態度】〈振り返りブック・観察〉 ○事前に役割や進行方法について確認を行う。
話し 合い 活動	<ul style="list-style-type: none"> ●議題の確認 「合唱祭に向けて、クラス目標を決定しよう。」 ●話し合うこと1「文化祭の反省を踏まえて、合唱祭に向けてのクラス目標（スローガン）を設定する。」 ●話し合うこと2「役割分担はどうか。」 ●振り返りを行う。 ☆「振り返りブック」の「意欲」「思考力」「調整力」の観点で、自分の学級会への取組方を自己評価する。(10段階) ☆「振り返りブック」に「自分のよかった点・頑張った点」、「クラスで輝いた人・ペアの良かった点」の観点で振り返る。その際に、友達の書いていることを見な 	<ul style="list-style-type: none"> ◎これまでの学校行事や集団生活の経験を生かしたり、多様な意見のよさを生かしたりしながら話し合い活動をしている。 「最初から全力を尽くすという意見が多かったので完全燃「唱」を提案します。」 「心をつなぐ音楽の力を提案します。合唱祭に向けて文化祭の時には足りなかった話し合いの機会を増やせば互いを理解しながら合唱できると思います。」 ○生徒の意見を尊重する。 ○話し合いが深まるよう、根拠や理由を意識させる問い掛けを行う。 ◎団結力を高める内容はどれがよいか根拠を明確にしながらか発言したり、友達の意見と比べて聞いたりしている。 「私は、心をつなぐ音楽の力に賛成です。常にパート内や指揮者・伴奏者と相

	<p>がら考えてよい。(記述式)</p> <p>●司会グループが「今日の輝いた人」を発表する。 ☆「振り返りブック」の内容を見ながら発表する。</p> <p>●まとめを書く ☆「振り返りブック」に振り返りも含めた学級会全体の感想を書く。</p>	<p>談しながら言葉を多く交わすことでよりクラスの団結力が高まり歌声もひとつになると思うからです。」</p> <p>「私は、響け！F組のハーモニー！だけだと目標が分かりにくいので目指せ最優秀賞！と合わせたスローガンにする」と取組が明確になると思います。」</p> <p>○振り返りの記入を円滑に進められるよう、入力指示を明確に行う。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈発言・振り返りブック〉</p>
事後の活動	<p>●決定した目標に基づいて、合唱祭の準備や練習に取り組む。</p> <p>●合唱祭後の振り返りを行う。 ☆「振り返りブック」に「自分のよかった点・頑張った点」の観点で振り返り、合唱祭への取組の感想を書いて次の活動につなげる。(記述式)</p>	<p>◎クラスの課題と行事への取組目標を意識して、それぞれの役割を自覚し、協力して取り組んでいる。</p> <p>【思考・判断・表現】〈観察〉</p> <p>◎合唱祭の成果と課題を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしたりしている。</p> <p>【主体的態度】〈振り返りブック・観察〉</p> <p>○それぞれの役割を果たせるよう、取組状況を把握する。</p>

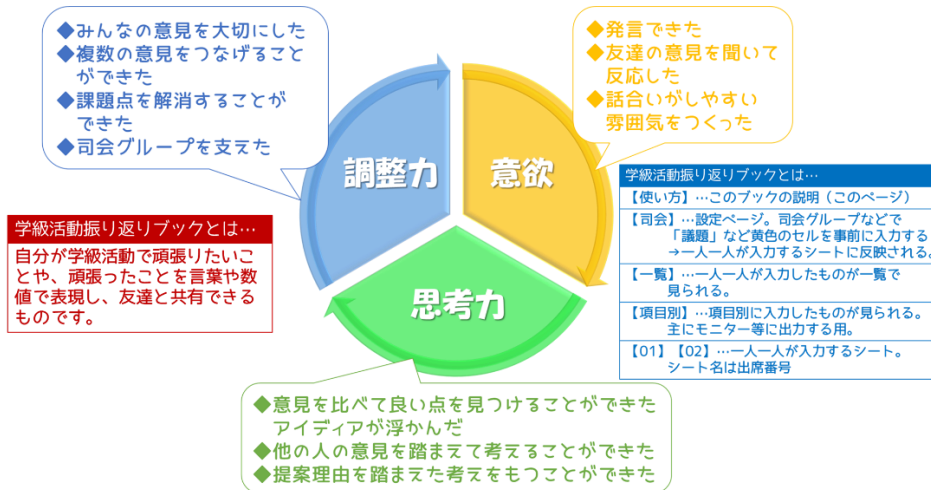
※本議題においては、研究主題との関連により【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】に重点を置き、評価する。

3 振り返りブック

「振り返りブック」は5種類のシートから構成されており、生徒が「共有」と「振り返り」の価値付けを意識しながら活用できるようにした。

(1) シート① 「振り返りブック」の説明（中学校用）

- 「振り返りブック」を説明するシートになっている。



(2) シート② 議題と設定理由

- 議題や提案理由等の一覧になっている。

学級会設定					
	日付	議題	提案理由	決まっていること	話し合うこと
①	第1回学級会				
②	第2回学級会				

(3) シート③ 全体一覧（教員のみ）

- 生徒一人一人が入力した項目をまとめて共有できるページとなっている。

↓ 番号を入力するとその回の学級会の内容が反映されます。

出席番号	氏名	自分の考え	理由	意欲	思考力	調整力	自分の良かったところ・頑張ったところ	友達	友達の良かったところ	ペア	ペアの良かったところ	ペア②	ペアの良かったところ②	学級活動の感想	自己採点	実践で自分が頑張ったところ	実践でみんなが良かったところ
1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(4) シート④ 振り返り一覧

- シート⑤の個人のページに入力した意見、理由、振り返り等が一覧となっており、共有できるようになっている。左上の回数の数字を変更することで指定した学級会の記録を確認することができ、右上の項目名を変更することで指定した項目の一覧を確認することができる。

↓ 番号を入力するとその回の学級会の内容が反映されます。

↓ 項目を選択します。

① 第1回学級会					1900/1/0	0	理由
1 Aさん	2 Bさん	3 Cさん	4 Dさん	5 Eさん			
0	0	0	0	0			
6 Fさん	7 Gさん	8 Hさん	9 Iさん	10 Jさん			
0	0	0	0	0			

(5) シート⑤ 個人のページ

- シート⑤以降は、出席番号が入力されており、生徒は自分の番号のシートに入力を行う。ここに入力された文章や数値はシート④に反映され、一覧の中で確認することができる。

01	0	「学級会の前・授業の後に記入します」		「学級会の前に記入します」		「氏名を識別し」文章を入力します		「氏名を識別し」文章を入力します		「氏名を識別し」文章を入力します		「氏名を識別し」文章を入力します		「氏名を識別し」文章を入力します		「氏名を識別し」文章を入力します	
出席番号	氏名	自分の考え	理由	意欲	思考力	調整力	自分の良かったところ・頑張ったところ	友達	友達の良かったところ	ペア	ペアの良かったところ	ペア②	ペアの良かったところ②	学級活動の感想	自己採点	実践で自分が頑張ったところ	実践でみんなが良かったところ
0	某国字組																
0	某国字組																

4 検証の考察

学級・ホームルーム活動における振り返りを充実させ、生徒が一人一人のよさや可能性を認識できるようにするために、「振り返りブック」を活用し、自己評価や他者からの評価を共有することで適切な自己評価につながると考えた。また、司会や教師からの価値付け後にもう一度振り返ることで振り返りを深めることを目指した。

(1) 成果

- 「振り返りブック」にあらかじめ生徒の考えを入力していたことで、話し合い活動で「出し合う」ときにスムーズな進行となり、話し合いを深めることができた。また一人一人が意見をもって、話し合い活動へ参加することができた。
- 「振り返りブック」に自己評価だけでなく他者評価も入力したことで、「〇〇さんは提案の良いところ、悪いところを分かりやすく説明してくれた。」など、他者のコメントを参考にして、自分のよさや可能性を認識し、自分の取組を肯定的に評価することにつながった。また、話し合い活動を積み重ねていく中で、自分自身の発言力に気付き、話し合い活動へ積極的に参加できるようになった生徒が見られた。
- 「振り返りブック」で「今日の輝いた人」を共有することで、評価された生徒は次回の話し合い活動の意欲が向上している傾向が見られた。「振り返りブック」内だけでの共有にとどまらず、最後に「今日の輝いた人」を司会グループが発表する取組も、紹介された生徒に対して全員で拍手を送る時間となり、自分のよさに気付くきっかけとなった。
- 「振り返りブック」のコメントから、自己評価および他者評価が共有されることで様々な角度からの価値付けとなり、話し合い活動への参加態度や合意形成についての理解が深まっているように感じられた。継続していくことで、自分が具体的にどう話し合いに貢献していけばよいかのかが明確になり、より集団への所属感や自己肯定感を高めていけるのではないかと考える。

(2) 課題

- 振り返りの充実を図るため、自己評価の他に今日の輝いた人等を記入したが、振り返りの時間が長くなる傾向があった。記入方法を記述式から選択式にしたり、記入内容を精選したりするなどして、話し合い活動等の時間を十分に確保することが必要であった。
- 話し合い活動が滞った場面において、司会グループが「振り返りブック」を十分に活用し、生徒を指名したり意見をまとめたりするまでに至らなかった点が課題であった。

VI 研究成果の分析

本研究では、学級・ホームルーム活動で行う「振り返り」を工夫することで、生徒の自己理解や他者理解がどのように変化するかを調べるため、9月と11月に同じ内容のアンケートを行った。

1 Q1「自分のよさ」について

項目ごとの選択率を見ると、No.3「話し合いがしやすい雰囲気を作ることができる」以外のすべての項目が増加した。特に、発言することや他者の意見を基に考えること、集団を支える姿勢など、協働的な学びに関わる項目で伸びが大きかった。

○ No.1「発言できる」は、11.31ポイント

増えており、発言への抵抗が減り自己表現に自信が付いてきていることが分かる。

○ No.2「友達の意見を聞いて反応することができる」は11.79ポイント、No.6「他の人の意見を踏まえて考えることができる」は10.26ポイント増えており、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを深める姿勢が育っていることが分かる。

○ No.4「意見を比べて良い点を見付けることができる」は6.62ポイント、No.8「みんなの意見を大切にすることができる」は5.94ポイント増えており、集団に貢献し、多様な意見を受け止めて判断できるようになっていることが分かる。

これらの伸びは、振り返りを通して自分や仲間の行動を言葉にして見直す経験を積み重ねた成果といえる。

一方、No.3「話し合いがしやすい雰囲気を作ることができる」は0.98ポイント減少した。

これは、雰囲気作りは行動として捉えにくいことや、調整力等の具体的な力が向上した結果、他者から価値付けしにくい項目が減少したと考えられる。

2 Q2「学級活動・ホームルーム活動において自分は役に立っていると思いますか」について

「思う」を10、「思わない」を1とした10段階の選択肢から1つを選んだ数の合計をサンプル数で割った際の平均値は4.06から4.86に上昇した。この変化から、「自分は役に立っている」と感じた生徒が増えた

ことが分かる。「分からない」と答えた生徒は21.19%から16.56%に減少し、自分は役に立っているということを理解した生徒が増えたことが分かる。

3 Q3「学校生活に自分のよさや可能性を生かそうとしていますか。」について

「思う」を10、「思わない」を1とした10段階の選択肢から1つを選んだ数の合計をサンプル数で割った際の平均値は5.05から5.79に上昇した。この変化から、「生かそうとしている」生徒が増えたことが分か

Q1 学級・ホームルーム活動において自分のよさは何だと思いますか(複数選択可)

No	項目	9月 167人	11月 157人	増減
1	発言できる	27.54%	38.85%	▲ 11.31
2	友達の意見を聞いて反応することができる	55.09%	66.88%	▲ 11.79
3	話し合いがしやすい雰囲気を作ることができる	24.55%	23.57%	▲ 0.98
4	意見を比べて良い点を見付けることができる	23.95%	30.57%	▲ 6.62
5	アイデアが浮かぶ	35.33%	40.13%	▲ 4.80
6	他の人の意見を踏まえて考えることができる	31.14%	41.40%	▲ 10.26
7	提案理由を踏まえた考えをもつことができる	16.77%	17.83%	▲ 1.07
8	みんなの意見を大切にすることができる	53.29%	59.24%	▲ 5.94
9	複数の意見をつなげることができる	18.56%	19.11%	▲ 0.55
10	課題点を解消することができる	10.78%	12.74%	▲ 1.96
11	リーダー(司会グループ)を支えることができる	14.37%	18.47%	▲ 4.10
12	その他	5.99%	0.64%	▲ 5.35

Q2 学級活動・ホームルーム活動において自分は役に立っていると思いますか(10段階)

No	項目	9月 167人	11月 157人	増減
1	平均値	4.06	4.86	▲ 0.80
2	「わからない」と答えた生徒	21.19%	16.56%	▲ 4.63

Q3 学校生活に自分のよさや可能性を生かそうとしていますか(10段階)

No	項目	9月 167人	11月 157人	増減
1	平均値	5.05	5.79	▲ 0.74
2	「わからない」と答えた生徒	12.58%	10.83%	▲ 1.75

る。「分からない」と答えた生徒は12.58%から10.83%に減少した。これらのことから、学級・ホームルーム活動において、自分のよさを理解したことが、学校生活全体でも生かされ始めていることが分かる。

4 3つの指標から見えること

自分のよさに気付くことで自己肯定感が高まり、学級・ホームルームで役に立っていると感じることから所属意識が向上し、これらを学校生活で生かそうというよい活動の循環が生まれていることが分かる。

さらに「役に立っている」という感覚の高まりは、生徒の自己効力感（自分は目標を達成することができるという感覚）を育てる上で大きく貢献したといえる。

VII 今後の課題

本研究により、振り返りの工夫は「個別最適な学び」と「協働的な学び」をつなげることや、自己のよさを仲間との関わりの中で理解することが明らかとなった。生徒は自分自身を理解するだけでなく、周囲の仲間との協働や、役割を意識しながら活動する力を身に付けつつある。

また、「分からない」と答えた生徒の減少からは、生徒が自己の行動や特徴を言葉で説明できるようになり、自己理解がより確かになっていることが読み取れる。

一方、課題としては、Q2「学級活動・ホームルーム活動において自分は役に立っていると思いますか」の平均値は11月時点でも中位水準をわずかに下回った。学校への寄与感が低い傾向にある約半数の生徒に対し、これからも継続的に「振り返りブック」を活用した学級・ホームルーム活動を行い、自己肯定感の高まりを所属意識の向上に結び付けていくことが求められると考える。

小学校から高等学校までの学級・ホームルーム活動において、「振り返りブック」を用いた特別活動の振り返りを系統的かつ継続的に実践していくことで、生徒一人一人のよさや可能性が認識され、学級・ホームルーム活動でよりよく発揮し、学校生活に生かそうとする生徒の育成につながることを期待される。

令和7年度 教育研究員名簿

中・高 合同・特別活動

学 校 名	職 名	氏 名
練馬区立中村中学校	主幹教諭	◎高橋 雄太
町田市立つくし野中学校	主任教諭	長瀬 友香
小平市立小平第四中学校	主任教諭	糸井 大地
東久留米市立久留米中学校	主幹教諭	貝塚 克寿
東京都立八潮高等学校	主任教諭	松下 訓子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 小林 亜津志

令和7年度
教育研究員研究報告書
中・高 合同・特別活動

令和8年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6869